



User Guide



LAUNCHKEY

警告:

本製品を通常に動作させている場合にも、強力な静電放電 (ESD) の影響を受ける可能性があります。このような場合には、USB の接続を一度解除し、再度接続することで再起動をお試しくください。通常の動作が回復します。

商標

Novationの商標は Focusrite Audio Engineering Ltd.が所有しています。このマニュアルに記載されているその他すべてのブランド名、製品名、会社名、およびその他の商標登録または商標は、それぞれの所有者に帰属します。

免責事項

Novationは、ここに記載されている情報が正確で完全であることを保証するために可能なすべての措置を講じています。いかなる場合でも、Novationは、本マニュアルまたはそこに記載されている装置の使用に起因する装置、第三者または装置の所有者に対する損失または損害についていかなる責任も負いません。本書に記載されている情報は、事前の警告なしに変更することがあります。仕様および外観は、リストおよび例示されているものとは異なる場合があります。

著作権表示と法定通知

NovationはFocusrite Audio Engineering Limitedの登録商標です。Launchkey MK3はFocusrite Audio Engineering Plcの商標です。

2019 © Focusrite Audio Engineering Limited. 無断転用禁止。

Novation

Focusrite Audio Engineering Ltd.の一部門
Windsor House, Turnpike Road
Cressex Business Park , High Wycombe
Buckinghamshire , HP12 3FX
United Kingdom

電話: +44 1494 462246
ファックス: +44 1494 459920
e-mail: sales@novationmusic.com
ウェブサイト: www.novationmusic.com

Contents

1.0 はじめに	5
1.1 主な機能	5
1.2 同梱物	6
1.3 使用を開始する	6
1.4 サポート	7
1.5 各モデル機能表.....	7
1.6 ハードウェア概要.....	7
1.7 接続する.....	10
1.7.1 Launchkeyをコンピュータに接続する.....	10
1.7.2 Launchkeyを外部MIDI対応機器に接続する	10
2.0 Ableton Liveとの連携	11
2.0.1 インストール.....	11
2.0.2 セットアップ.....	11
2.1 セッションモード	13
2.1.1 クリップのローンチ	15
2.1.2 シーンのローンチ	16
2.1.3 Stop, Solo, Mute (停止、ソロ、ミュート)	16
2.1.4 録音	17
2.1.5 Capture MIDI (キャプチャMIDI)	17
2.1.6 Quantise (クオンタイズ)	17
2.1.7 Click (クリック)	17
2.1.8 Undo (アンドゥ)	17
2.1.9 Arm/ Select (アーム/選択) (61および49鍵盤モデルのみ)	17
2.2 ドラムモード - ドラムの演奏と録音	18
2.3 Ableton Liveミキサーの使用.....	19
2.3.1 ノブ	19
2.3.2 フェーダー (49および61鍵盤モデルのみ)	20
2.4 デバイスモード - デバイスの移動とコントロール	20
2.4.1 デバイスの選択.....	21
2.4.2 Device Lock (デバイスロック)	22
2.5 トランスポート機能.....	23
3.0 スタンドアロン機能	24
3.1 グリッド	24
3.1.1 ドラムモード.....	24
3.2 コードモード.....	24
3.2.1 スケールコードモード.....	24
3.2.2 ユーザコードモード	25
3.2.3 固定コード	27
3.3 スケールモード.....	28
3.4 カスタムモード.....	29

3.4.1	パッド	30
3.4.2	ノブ	30
3.4.3	フェーダー (49および61鍵盤モデルのみ)	30
3.5	アルペジエーター	30
3.5.1	アルペジエーターのロータリーノブ	31
3.5.2	アルペジオモード	31
3.5.3	アルペジオレート	32
3.5.4	アルペジオオクターブ	33
3.5.5	アルペジオリズム	33
3.5.6	ラッチ	34
3.5.7	Arp Control Lock (アルペジオコントロールロック)	34
3.6	オクターブボタン	35
3.7	設定	35
3.8	Pot Pickup (ノブのピックアップ)	36
3.9	ナビゲーションモード - ([...]ボタン)	36
4.0	他のDAWとの連携	37
4.1	Logic	37
4.1.1	セットアップ	37
4.1.2	セッションモード	38
4.1.3	ノブ	39
4.1.4	フェーダー (49および61鍵盤モデルのみ)	40
4.1.5	Arm/ Select (アーム/選択) (61および49鍵盤モデルのみ)	41
4.1.6	トランスポート機能	41
4.1.7	ナビゲーション	41
4.2	Reason	42
4.2.1	セットアップ	42
4.2.2	トランスポートコントロール	43
4.2.3	ロータリーノブ	43
4.2.4	パッドのセッションモード	43
4.2.5	ナビゲーション	43
4.2.6	プリセットのブラウズ	43
4.3	HUIとの連携 (Pro Tools、Cubase、Studio Oneなど)	44
4.3.1	セットアップ	44
4.3.1.1	Pro Tools	44
4.3.1.2	Cubase	44
4.3.1.3	Studio One	44
4.3.2	パッドのセッションモード	44
4.3.3	ナビゲーション	44
4.3.4	ミキサーのコントロール	44
4.3.5	フェーダーおよびフェーダーボタン (49および61鍵盤モデルのみ)	45
4.3.6	トランスポートボタン	45
5.0	カスタムモードおよびComponents	46

1.0 はじめに

Launchkey [MK3]は、直感的な操作が可能なNovation MIDIキーボードコントローラーです。Ableton Liveでの音楽制作を完全に統合された形で行え、制作や演奏に必要なものがすべて備わっています。あらゆるレベルの方々にお使いいただけ、音楽表現の可能性を広げる刺激的なツールです。

Launchkeyでは、キャプチャMIDI、トラックアーム、クオンタイズ、クリック、ループコントロールなど実に多くのAbleton Liveの機能にアクセスが可能です。Ableton Liveを使用していない方もご安心ください。Launchkeyは、LogicやReasonとも完全に連携が可能であり、Studio One、Cubase、Pro Toolsといった他のDAWともHUIを介してすぐに操作が可能です。

さらに、スケールモードやコードモード、高性能なアルペジエーターなど素晴らしい機能が搭載されており、これらを組み合わせることで楽曲の可能性を広げ、新しい方法で音楽を作ることが可能になります。スケールモードでは、演奏した鍵盤やパッドを、選択したスケール内のノートに移調できます。また、コードモードでは、1本の指で複雑なコードをトリガーでき、高性能なアルペジエーターがメロディーにさらなる動きを与えます。

Launchkeyはスタンドアロンでの使用も可能です。搭載されているフルサイズの5ピンMIDI出力を利用すれば、いかなるMIDI対応デバイスとも利用できます。Novation Componentsを使用すればカスタムモードを設定でき、Launchkeyのノブ、フェーダー、パッドをすべてMIDIマッピング可能です。

1.1 主な機能

- Ableton Live用に設計：必要なコントロール部に即座にアクセス可能。
- その他のDAWにも対応：LogicとReasonとの完全統合、Studio One、Cubase、Pro Toolsなども、HUIを介してただちに連携します。
- 制作から演奏まで：25、37、49、61の鍵盤はベロシティセンシティブに対応し、16のパッドはベロシティセンシティブ対応かつRGBバックライトが搭載。
- 音作りに最適：8つのロータリーエンコーダーと9本のフェーダー（Launchkey 49および61のみ）を使って、インストゥルメントやエフェクトを微調整可能。
- 鍵盤にスケールを自動マッピング：音を外さず演奏可能。
- 豊かな想像力を発揮：3つのコードモードを利用すれば1本の指でコードをトリガーでき、高性能なアルペジエーターがメロディーにさらなる動きを与えます。
- トランスポートおよびミキサーコントロール：再生、録音、パン、ミュート、センドを直接操作。
- ハードウェアに接続：5ピンMIDI出力があらゆるMIDI対応デバイスと連携。
- あらゆるMIDIデバイスをコントロール：Novation Componentsを利用すれば、自身のパフォーマンスやスタジオ機材に合わせたカスタムのマッピングを設定可能。
- 直ちに楽曲を制作：Ableton Live Lite、バーチャルインストゥルメント、エフェクトプラグイン、サンプルパックが付属。

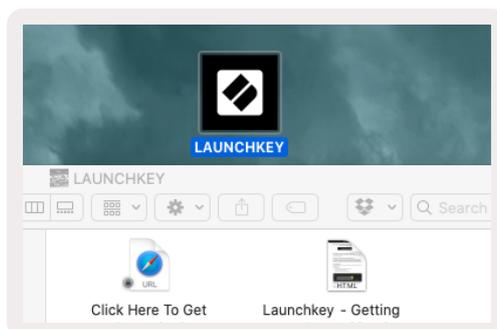
1.2 同梱物

- Launchkey 25／37／49／61本体
- USB Type-A - Type-Bケーブル (1.5メートル)
- 安全上の注意

1.3 使用を開始する

"Easy Start Tool"はシンプルなオンラインツールであり、Launchkeyの設定をステップごとに解説しています。ここでは、本体の登録やソフトウェアバンドルの入手方法なども紹介しています。

Launchkeyをコンピュータに接続すると、本体がUSBドライブのような大容量記憶装置 (MSD) として表示されます。ドライブを開き、「Click Here to Get Started.url」をクリックします。すると、ブラウザ上にEasy Start Toolが開きます。



NovationウェブサイトではLaunchkeyを登録することでも、ソフトウェアバンドルにアクセスが可能です。

PLEASE LOG IN

Your email address

Your password

LOG IN

[Forgotten Password?](#)

WHY DO YOU NEED TO LOGIN AND REGISTER YOUR PRODUCT?

- Access any free software and activation codes that come with your product
- Ensure you have the latest drivers, software and firmware
- Receive information about software, driver and firmware updates
- Control your contact preferences

DON'T HAVE AN ACCOUNT?

CREATE AN ACCOUNT

REGISTER YOUR PRODUCT

1.4 サポート

詳細やサポートについては[Novationヘルプセンター](#)をご覧ください。

1.5 各モデル機能表

Launchkeyには25、37、49、61鍵盤のバージョンがラインナップされています。以下の表ではモデルごとの機能一覧が示されています。また、モデルごとに異なる機能については本ガイド全体を通して解説されています。

モデル	Launchkey 25	Launchkey 37	Launchkey 49	Launchkey 61
ベロシティセンシティブ鍵盤	25	37	49	61
フェーダー	-	-	9	9
フェーダー/トラックボタン	-	-	9	9
Arm/ Selectボタン	-	-	✓	✓

1.6 ハードウェア概要





1	LCDディスプレイ	デバイスの状態とパラメータ値が表示され、メニュー内を移動できます。
2	Shiftボタン	ハードウェア上にグレーの文字で記載されている二次機能へのアクセスを有効にします。
3	Settingsボタン	画面上で設定メニューを開きます。(設定オプションはセクション3.7を参照)
4	▲▼ボタン	パッドの列を上下に移動させます。Live内のクリップやドラムラック、コードなどに使用します。
5	Track ◀▶ ボタン	DAW内のトラックを移動します。
6	... ボタン(ナビゲーションモード)	[...] ボタンを押すとLaunchkeyがナビゲーションモードに切り替わり、サンプルやプリセットのブラウジングを簡単に行えます。
7	Fixed Chordボタン	キーボード上で演奏するコードを保存します。ボタンを押さえたまま「固定」コードに設定したい鍵盤を押して離します。
8	Arpボタン	Launchkeyの内蔵アルペジエーターのオンオフを切り替えます。長押しすると、ノブとパッドのアルペジオコントロールがオンの状態にロックされます。
9	Scaleボタン	Launchkeyのスケールモードのオンオフを切り替えます。
10	Octave - + ボタン	キーボードを8オクターブ(C-2からC5)間で上下にトランスポーズします。両方のボタンを押すと0に戻ります。
11	ピッチホイール	演奏中のノートのピッチを変化させます。
12	モジュレーションホイール	ソフトウェア/ハードウェアのパラメータにモジュレーションを適用します。



13	ノブ	8つのモード (Device、Volume、Pan、Sends、4つのカスタムモード) を使って様々なパラメータをコントロールします。また、最初の5つのノブは二次機能としてArpパラメータをコントロールします。
14	パッド	Ableton Live内のクリップをトリガーし、ドラムラックを演奏するには、SessionおよびDrumモードを使用します。カスタムMIDIメッセージの送信には4つのカスタムモードを使用します。Scale ChordおよびUser Chordモードではコードをトリガーできます。
15	Device Select	パッドを使用してAbleton Liveでコントロールしたいデバイスを選択します。
16	Device Lock	他のトラックに移動した際にも、ノブで選択しているAbleton Live内のデバイスコントロールをロックします。
17	> ボタン (シーンローンチ)	Ableton Liveの一行内のクリップを一気にローンチします。
18	Stop/ Solo/ Muteボタン	下の列のパッドをトラックのStop、Solo、Muteボタンに切り替えます。



19	フェーダー (Launchkey49および61鍵盤モデルのみ)	8つのモード (Device、Volume、Send A、Send B、4つのカスタムモード) を使って様々なパラメータをコントロールします。9番目のフェーダーはDAW内のマスター音量をコントロールします (HUIを除く)。
20	フェーダーボタン (49および61鍵盤モデルのみ)	8つのモード (デバイス、Volume、Send A、Send B、4つのカスタムモード) を使って様々なパラメータをコントロールします。
21	Arm/ Selectボタン (49および61鍵盤モデルのみ)	DAWのフェーダーボタンの機能を変更することで、トラックの選択と録音アームが行えます。



22	Capture MIDI (キャプチャMIDI)	直前に演奏されたMIDIノートをDAW内に呼び出します (Ableton LiveおよびLogic対応)。
23	Quantise	Ableton LiveおよびLogicのクオンタイズ機能をトリガーし、ノートがグリッドに吸着します。

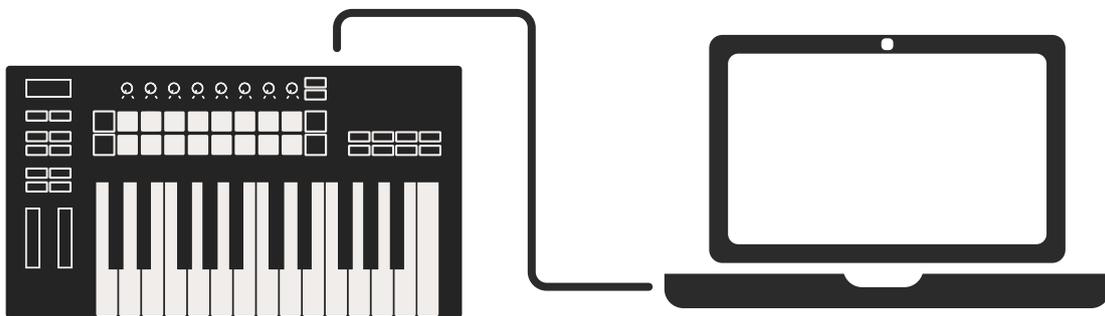
24	Click	LogicおよびLiveのメトロノームのオンオフを切り替えます。
25	Undo	LogicおよびLiveのアンドゥ機能をトリガーします。
26	再生、録音、停止、ループ	DAW内の再生をコントロールします。

1.7 接続する

1.7.1 Launchkeyをコンピュータに接続する

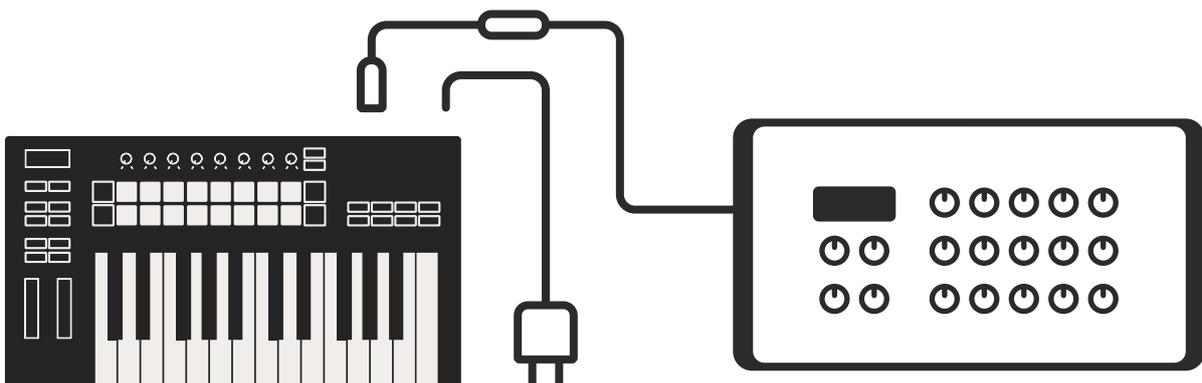
LaunchkeyはUSBバスパワーに対応しているため、USBケーブルでコンピュータに接続するとただちに電源が入ります。初めてLaunchkeyを接続するときは、**Components**で最新のファームウェアであることを確認してください。これにより、最新の機能がすべて有効であることが確認できます。

注意: LaunchkeyをMacに接続すると、キーボード設定アシスタントが表示されることがあります。これは、Launchkeyがナビゲート機能を有効にするためにコンピュータのキーボードデバイスとしても機能するためです。キーボード設定アシスタントは、閉じてしまって構いません。



1.7.2 Launchkeyを外部MIDI対応機器に接続する

コンピューターを使わずにLaunchkeyの5ピンDINソケットをMIDI出力として使用する場合は、標準のUSB電源 (5V DC、最小500mA) で電源供給することができます。



2.0 Ableton Liveとの連携

LaunchkeyはAbleton Liveとシームレスに連携するように設計されており、難しい設定を行うことなく、深い統合性のもと、パワフルな音楽制作とパフォーマンスを行えます。さらに **カスタムモード** を使用すれば、必要に応じてLaunchkeyを用途に合わせて設定することも可能です。Ableton Liveに関するLaunchkeyの機能については、以下で詳しく説明しています。

2.0.1 インストール

既にAbleton Live 10をお持ちの場合は、Liveを開いてLaunchkeyを接続するだけです。Ableton Live 10をお持ちではない場合、novationmusic.com/registerでお持ちのLaunchkeyを登録し、付属のAbleton Live 10 Liteをダウンロードしてインストールしてください。Ableton Liveを使ったことがない場合は、NovationのEasy Start Tool ([使用を開始するを参照](#))をご利用ください。インストールやLiveの基本機能、Launchkeyで音楽制作を始める方法などをビデオで説明しています。

2.0.2 セットアップ

Ableton Liveをインストールしたら、LaunchkeyをMacまたはWindowsのUSBポートに接続します。Liveを開くとLaunchkeyが自動的に検出され**セッションモード**に切り替わります。

Launchkey本体のShiftを押すと、パッドが下図のように点灯します。上の列のパッド(青)で上部ノブの動作または"Mode"を選択し、下の列のパッド(緑)でパッドの動作またはModeを選択します。パッドが赤の場合、そのモードがフェーダーに割り当てられていることを示します(49および61鍵盤モデルのみ)。



パッドの点灯の仕方が上図と異なる場合は、Liveのコントロールサーフェスの環境設定を確認する必要があります。これは、Ableton Liveの環境設定メニュー内 [Link/MIDI] で行います。

Windows: オプション > 環境設定 > Link/MIDI

Mac: Live > 環境設定 > Link/MIDI



Link/MIDI タブで、上図の通り設定を行います。まずはじめに [コントロールサーフェス] メニューから Launchkey MK3を選択します。次に、[入力] で「Launchkey MK3 [...] (LKMK3 DAW OUT)」またはLaunchkey MK3 MIDI IN2 (Windows) を選択し、[出力]で「Launchkey MK3 [...] (LKMK3 DAW IN)」を選択します。最後に、トラック、同期、リモートの設定を上図と同じように設定します。

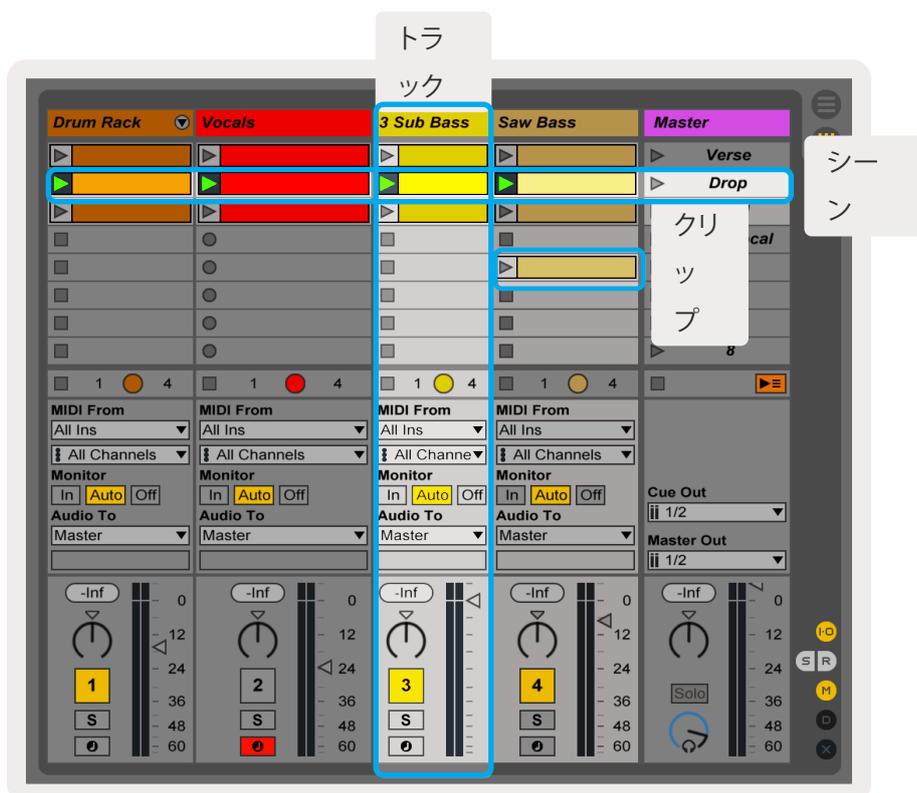
LaunchkeyとAbleton Liveの連携がうまくいかない場合は、[Easy Start Tool](#)内の解説ビデオをご確認ください。

2.1 セッションモード

セッションモードは、Ableton Liveのセッションビューのコントロール用に設計されています。Launchkeyのセッションモードにアクセスするには、Shiftを押さえたまま [Session] パッド (左一番下のパッド) を押します。すると、Sessionパッドが下図のように明るく点灯します。



セッションビューはクリップ、トラック、シーンで構成されたグリッドです (下図参照)。



Launchkeyのセッションモードでは、セッションビュー内のクリップが8x2のグリッドで表示されます。下図はセッションモードでのLaunchkeyのパッドの例です。



クリップとは、基本的にMIDIノートやオーディオ音源を含むループを示します。



トラックはバーチャルインストゥルメントやオーディオトラックを示し、インストゥルメント・トラックに配置されたMIDIクリップはそのトラックにアサインされているインストゥルメントを演奏します。

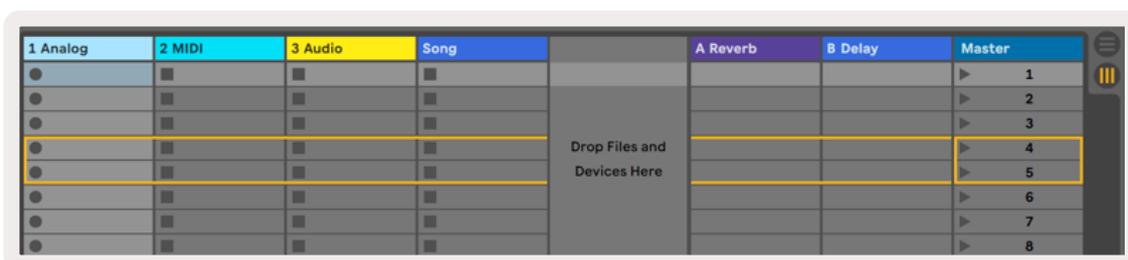


シーンはクリップの横一列を示します。シーンをローンチ (再生) すると、その列に含まれている全てのクリップが再生されます。つまり、横一列 (各トラックをまたいで) にクリップを配置することでグループを形成し、シーンを上から順に再生していくことで一つの曲を構成していきます。



Launchkeyのセッションモードにアクセスするには、Shiftを押さえたまま [Session] パッド (左一番下のパッド) を押します。

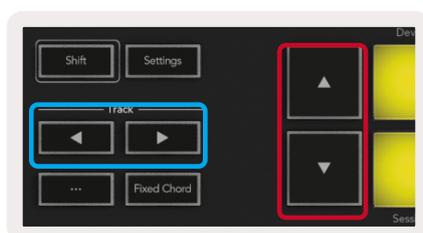
セッションモードでは、Ableton Liveのセッションビュー上で色のついた枠で示されるエリア内のクリップがパッド上に示されます。下図では、左端のトラックからマスタートラックまでがオレンジの長方形の枠で示されています。



Ableton Liveでクリップの配置や色を変更すると、Launchkeyのセッションモードに反映されます。点灯していないパッドは、空のクリップスロットを意味します。



▲▼ボタンとトラック◀▶ボタンを押すことで、セッションビュー内を移動できます。



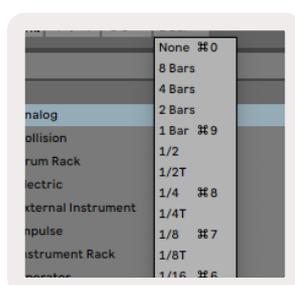
つまり、選択中のクリップのグリッドエリア (Ableton Live内の色の付いた長方形の枠) を上下に移動させることができ、▲ボタンではクリップのグリッドを1列上に移動させ、▼ボタンではクリップのグリッドを1列下に移動できます。

トラック ◀▶ ボタンでは、左右に隣接するトラックを選択します。これにより、そのトラックが自動的にアームされ、MIDIの受信ができるようになります。

2.1.1クリップのローンチ

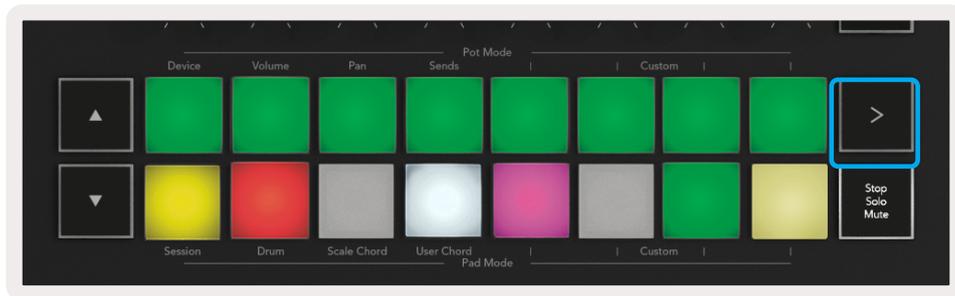
パッドを押すと、セッションビュー内の対応するクリップが再生されます。その際パッドが緑に点灯し、クリップが再生中であることを表します。パッドをもう一度押すと再度クリップが再生され、空のパッドを押すとそのトラックの再生が停止します。

クリップの停止や再度再生する場合の速さは、Live画面上部のクオンタイズメニューで設定できます。デフォルトでは1小節に設定されていますが、32分音符のように素早い反応にすることも、8小節のように遅い反応にすることも可能です。また、クリップがすぐ反応するように [None] に設定することもできます。



2.1.2シーンのローンチ

シーンローンチボタン (>) を押すと、Ableton Live内のシーンが再生されます。つまり、パッド上列のクリップ全てが一度に再生されます。



2.1.3 Stop, Solo, Mute (停止、ソロ、ミュート)

セッションモードで下の列8つのパッドの機能を切り替えることで、クリップを再生させないよう設定できます。これは、Stop, Solo, Muteボタンで行います。

それぞれ以下の通りにトラックに対する動作を切り替えます。

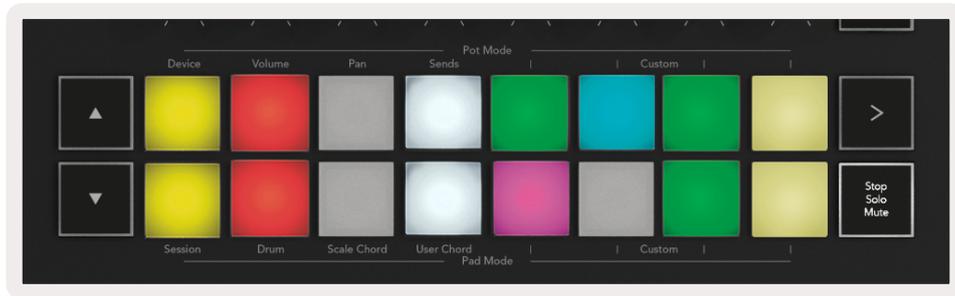
停止 (赤) - この状態で下の列のパッドを押すと、該当するトラック内のクリップが停止します。トラックが再生されていない場合、赤いパッドが暗く光ります。

ソロ (青) - パッドを押すと該当するトラックがソロになり、ソロにされたトラックのみが再生されます。トラックがソロになっていない場合(無音)、パッドが暗く光ります。ソロになっているトラックは明るい青に光ります。



ミュート (黄色) – パッドを押すと該当するトラックがミュートになります。ミュートになったトラックのパッドは薄暗く光り、ミュートになっていないトラックのパッドは、元の明るさと色のままです。

クリップ (マルチカラー) – (停止、ソロ、ミュートに切り替え後) 4回押すと、下のパッドの機能がデフォルトのセッションモードに戻り、パッドの下の列が再びクリップを示します。



2.1.4録音

セッションモード中にこのボタンを押すと、セッションの録音が始まります。これにより、演奏中のものを新しいクリップに録音したり、既存のクリップにオーバーダブしたりすることができます。

2.1.5Capture MIDI (キャプチャMIDI)

このボタンを押すことで、キャプチャMIDI機能をトリガーします。これにより、録音アームされたトラックで直前に演奏したMIDIノート、さかのぼって呼び戻すことが可能です。つまり、録音していない状態で演奏をした場合にも、Capture MIDI (キャプチャMIDI) ボタンを使えばクリップに直接読み込むことができます。

2.1.6Quantise (クオンタイズ)

このボタンを押すことで、選択中のトラックで有効なクリップ内のMIDIノートにクオンタイズをかけられます。これにより、MIDIノートがグリッドに吸着し、拍に合わせることができます。

2.1.7Click (クリック)

Abletonのメトロノームのオンオフを切り替えます。

2.1.8Undo (アンドゥ)

アンドゥ機能をトリガーします。

2.1.9 Arm/ Select (アーム／選択) (61および49鍵盤モデルのみ)

[Arm/ Select] ボタン (下図赤い枠で示されているボタン) では、8つのフェーダーボタン (下図青い枠で示されているボタン群) の機能をトラックの録音アームの有効化またはトラック選択に設定します。録音アームを設定した場合、トラックの録音アームが有効なトラック下のボタンが赤く点灯し、無効なトラックは薄暗い赤に点灯します。点灯していないボタンは、フェーダーにいかなるトラックも紐づいていないことを示します。

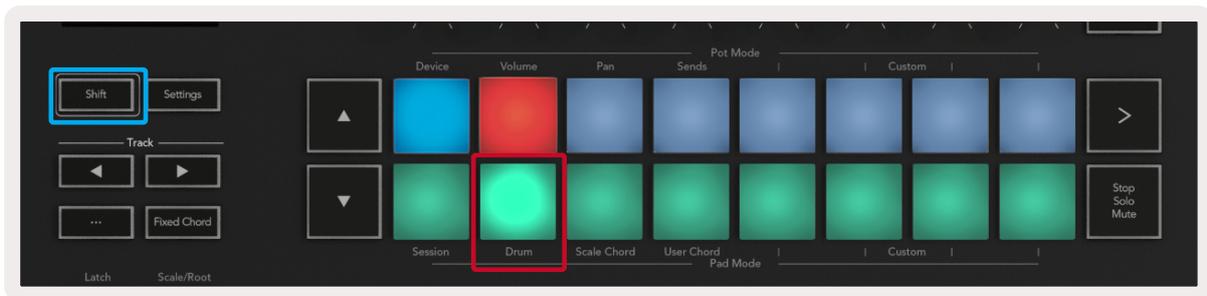


トラック選択に設定した場合、ボタンの色がLive内のトラック色と一致します。フェーダーボタン(青く囲まれているボタン群)を押すと、そのトラックが選択されます。

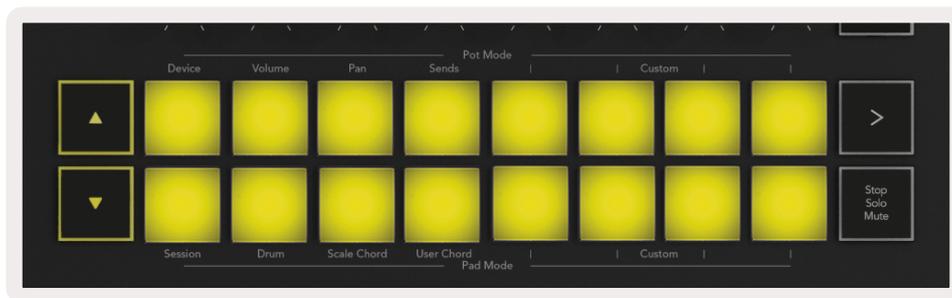


2.2 ドラムモード - ドラムの演奏と録音

Shiftボタンを押さえたまま [Drum] パッド(下の列左から2番目)を押すと、ドラムモードに切り替わります。ドラムモードでは、Launchkeyのパッドがベロシティセンシティブなドラムパッドに変化します。



Launchkeyがドラムモードの際に選択中のLiveトラックにドラムラックが読み込まれると、パッドがそのトラックの色で点灯し、パッドを演奏すると緑色に点灯します。これらのパッドは、コンピュータ画面に表示されているドラムラックのパッドを演奏します。▲▼ボタンを押すと、ドラムラック内128パッドから構成されるバンクを上下にスクロールし、押すたびに16バンク分ラックが上下に移動します。



Abletonのドラムラックを使用している際、ドラムモードでは(サウンドのトリガーとは別に)ドラムラック内の関連するドラムラックパッドが選択されます。つまり、パッドから指を離れた際に直前に演奏されたドラムラックのパッドが白く点灯し、Ableton Live画面上でそのドラムラックのパッドが選択されている状態となります。

2.3 Ableton Liveミキサーの使用

8つのノブと8本のフェーダー(49および61鍵盤モデルのみ)を使えば、Ableton Liveのミキサーを指先でコントロールできます。これにより、プロジェクト内のトラックの音量、パン、センドA、センドBレベルのコントロールが可能になります。

2.3.1 ノブ

8つのノブ(ポット)を使用することで、Ableton Liveのミキサー部分を指先で回転して操作することができます。ノブを回し始めた際にコントロール値の急激な上昇を防ぐために、「Pot Pick(ノブのピックアップ)」機能を備えています。これにより、ノブがLive内で指定されている位置に動かされた場合にのみパラメータ値が実際に変化し始めます。例えばLive内でそのパラメータが0に設定されている場合、ノブを左いっぱいに戻すことでノブの動作が有効となります(Liveの環境設定でオフにできます)。LaunchkeyをLiveに接続すると、ノブは自動的にデバイスモードに切り替わり、Shiftボタンを押さえたまま上の列のラベルが振られたパッドを押すことで、ノブをLiveのミキサー(ボリューム、パン、センド)に割り当てられます。



2.3.1.1 Volume (音量) - このモードでは、ノブを使ってトラックの音量をコントロールします。Shiftボタンを押さえたまま [Volume] パッドを押すことでこのモードを選択できます。

2.3.1.2 Pan (パン) - このモードでは、ノブを使ってトラックパンの値をコントロールします。Shiftボタンを押さえたまま [Pan] パッドを押すことでこのモードを選択できます。

2.3.1.3 Sends (SEND) - このモードでは、ノブを使ってトラックセンドの値をコントロールします。Shiftボタンを押さえたまま [Sends] パッドを押すことでこのモードを選択できます。一回押すとノブがセンドAに割り当てられ、2回押すとBに割り当てられます。

注意:ノブとフェーダーの両方へ同時にモードを割り当てることはできません。フェーダーにすでにモードがマッピングされている場合、Shiftを押している間それぞれのパッドが赤く点灯し、この状態でパッドを押してもノブをそのモードに割り当てることができません。

2.3.2 フェーダー (49および61鍵盤モデルのみ)

9本のフェーダーを使って、Ableton Liveミキサーのパラメータを指先でコントロールできます。Shiftボタン(下図赤い枠で囲まれたボタン)を押さえたまま各フェーダーボタン(下図青く囲まれた部分)を押すことでこれらのモードを選択できます。LaunchkeyがLiveに接続されている場合、デフォルトではフェーダーがボリュームモードとなっています。このモードでは、最初の8本のフェーダーでAbletonのトラック音量をコントロールします。9番目のフェーダーは、いかなるモードの場合にも常にマスター音量をコントロールします。フェーダーでセンドA、センドBのレベルをコントロールすることも可能です。



注意:ノブとフェーダーの両方へ同時にモードを割り当てることはできません。ノブにすでにモードがマッピングされている場合、Shiftを押している間それぞれのフェーダーボタンが赤く点灯し、この状態でフェーダーボタンを押してもフェーダーをそのモードに割り当てることができません。

2.4 デバイスモード - デバイスの移動とコントロール

デバイスモードでは、Live内のトラックのデバイス (Ableton内蔵またはサードパーティ製のインストゥルメントおよびエフェクト) をコントロールします。LaunchkeyがLiveに接続されると、現在操作しているLive内のトラックに挿されている一つ目のデバイスにLaunchkyのノブが自動的に同期されます。デバイスのコントロールはフェーダーにも割り当てられます (49および61鍵盤モデルのみ)。まずはじめにノブがデバイスモードに割り当てられていないことを確認してから (モードはノブとフェーダーの両方に同時に割り当てることはできません)、Shiftボタンを押さえたまま1つ目のフェーダーボタンを押します。デバイスコントロールをノブに再び割り当てるには、Shiftボタンを押さえたまま上の列の1つ目のパッドを押します。



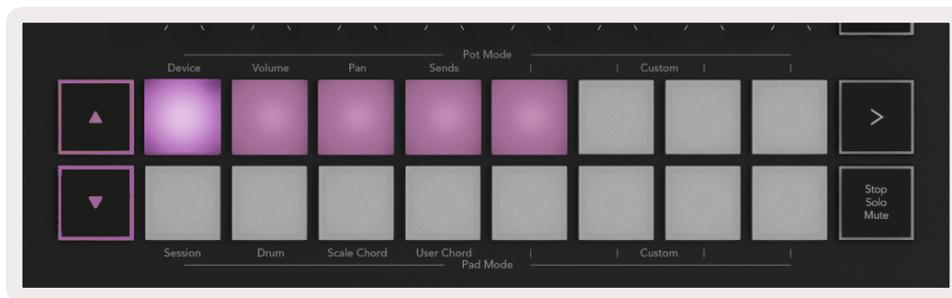
トラックにエフェクトトラックやインストゥルメントトラックが含まれている場合、アサインされたフェーダーまたはノブは、トラック内最初の8つのマクロコントロール部に同期されます。下図は「Percussion 1」という名称のインストゥルメントトラックのプリセットです。この例では、Launchkeyの8つのノブがサンプルボリューム、ストレッチ、開始時間、DelayやReverbエフェクトのDry/Wet値など、様々な重要なパラメータをコントロールします。



トラックにラックが含まれていない場合、一つ目のデバイスの選択された8つのパラメータにデバイスモードが同期します。トラック内の複数のデバイス間の移動は、「[デバイスの選択](#) / [Device Lock \(デバイスロック\)](#)」をご参照ください。

2.4.1 デバイスの選択

[Device Select] ボタンでは、トラック内のデバイス間を移動します。ボタンを長押しすることでアクセスでき、ドラムパッドと ▲▼ 矢印ボタンがピンク色に点灯します。



▲▼矢印ボタンでデバイス内を移動します。▲ボタンでは左に移動し▼ボタンでは右に移動します。パッドを使って、コントロールを行うページを選択できます。画面には、選択しているデバイスと、コントロール中のパラメータが表示されます。



2.4.2 Device Lock (デバイスロック)

[Device Lock] ボタンは、選択中のトラックを変更した場合にも、選択中のデバイスとコントロールバンクをコントロール部にロックしたままにします。機能している間、ボタンが点灯します。

デバイスロックをオフにするには、再度Device Lockボタンを押します。Device Lockボタンがオンの状態で新しいデバイスを選択すると、新しく選択されたデバイスにコントロールがロックされます。



2.5 トランスポート機能

下図のMIDIボタンでは、Ableton Liveでのパフォーマンスと録音の際の重要な機能を果たします。



2.5.1 再生 - このボタンを押すと、トラックの再生が開始します。

2.5.2 停止 - このボタンを押すと、トラックの再生を停止します。

2.5.3 録音 - セッションモード中にこのボタンを押すと、セッション録音が始まります。これにより、演奏中のものを新しいクリップに録音したり、既存のクリップにオーバーダブできます。

2.5.4 ループ - Abletonのループスイッチをトリガーします。

3.0 スタンドアロン機能

3.1 グリッド

グリッドは、2x8のベロシティセンシティブなパッドで構成されています。パッドのスタンドアロン機能について、以下で詳しく説明しています。

3.1.1 ドラムモード

Shiftを押さえたままドラムモードのパッド(下の列左から2番目)を押すと、ドラムモードに切り替わります。このモード中は、ベロシティセンシティブなパッドがC1~D#2のMIDIノートを出力し、青く点灯します。



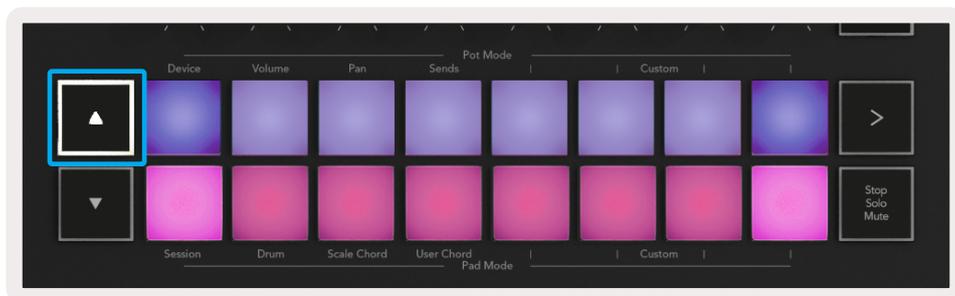
3.2 コードモード

3.2.1 スケールコードモード

スケールコードモードでは、あらかじめ用意されているコードのバンクを使用できます。これらのバンクにアクセスするには、Shiftボタンを押さえたまま [Scale Chord] パッドを押します。すると、パッドの各列にコードのバンクがアサインされます。デフォルトではルートキーがCマイナーとなります。この変更は、[スケールモード](#)を参照してください。



各列の最初と最後のパッドは他のパッドよりも明るく点灯し、ルートコードの位置を示します。コードのページ間の移動は、▲▼ナビゲーションボタンを使用します。最初のページでは、パッドの上の列が青に点灯し、3和音(トライアド)が含まれます。パッドの下の列には7ths(セブンス)が含まれ、濃い青に点灯します。▼ボタンを押すと9ths(ナインス)の列になり、パッドが紫に点灯します。その下は6/9ths(シックスナインス)で、パッドがピンクに点灯します。



パッドを押すと緑に点灯し、指を離すと元の色に戻ります。

コードのオクターブを変更するには、Shiftを押さえたまま▲▼ボタンを押します。これによって、-3オクターブから+3オクターブまで移動できます。

3.2.2 ユーザコードモード

ユーザーコードモードでは、各パッドに最大6つのノートを含むコードを割り当てることができます。これらのコードはLaunchkeyの内部メモリに保存されるため、電源を切ってから入れ直しても、アサインされたノートの情報呼び出して使用できます。

Shiftボタンを押さえたまま [User Chord] パッド(下の列左から4番目)を押すことでユーザーコードモードに切り替わります。



コードをパッドに割り当てるには、User Chordパッドを押さえたまま割り当てたいノート鍵盤を押します。各パッドに最大6ノートまで割り当てることができ、各鍵盤をそれぞれ押してアサインします。つまり、User Chordパッドを押さえたまま一度にすべての鍵盤を押す必要はありません。

コードが割り当てられると、パッドが青く点灯します。パッドを押すとコードが演奏され、緑に点灯します。コードが割り当てられていない場合はパッドが点灯しません。



パッドからコードの割り当てを取り消すには、Stop/Solo/Muteボタンを長押しします。コードが割り当てられているパッドが赤くなるため、それを押すと割り当てられたコードが取り消され、パッドが点灯しなくなります。



▲▼ ボタンをを使えば、コードバンクを-12から+12の間で半音づつトランスポーズすることができ、変更が画面に表示されます。



3.2.3 固定コード

固定コードではコードを演奏し、他の鍵盤を押すことでそれを移調することができます。

コードを設定するには、[Fixed Chord] ボタンを押さえたままコードに含めたい鍵盤を押して離します。これにより、コードが保存されます。



以下の例で示しているように、最初にアサインしたノートより低いノートを後から追加した場合にも、最初にアサインしたノートがそのコードのルート音として判断されるため、ご注意ください。



Fixed Chordボタンを押さえたままC、E、Gの順番に鍵盤を押して離します（Cメジャーコード）。本体がこれを「固定コード」として記録します。最後にFixed Chordボタンから指を離します。

これにより、どの鍵盤を押してもメジャーコードが鳴るようになります。例えば、Fを押すとFメジャーコード（下図参照）が演奏され、Abを押せばAbメジャーコードが演奏されるといった形です。



3.3 スケールモード

スケールモードでは、選択したスケール内のノートだけを演奏するようキーボード全体を設定できます。これにより、音を外すことなくキーボードを演奏することが可能です。[Scale] ボタンを押すとスケールモードが有効になり、ボタンが点灯します。画面上に現在有効なスケール（デフォルトではCマイナー）を示すメッセージが表示されます。

スケールを変更するには、Shiftボタンを押さながらScaleボタンを押してスケール設定にアクセスします。Scaleボタンが点滅し、スケール設定に切り替わったことを示します。ルート音を変更するには、該当の鍵盤を押します(全ての黒鍵は#として表されます)。スケールの変更は、スケール設定時にパッドを使って行います。以下のように表示されます。

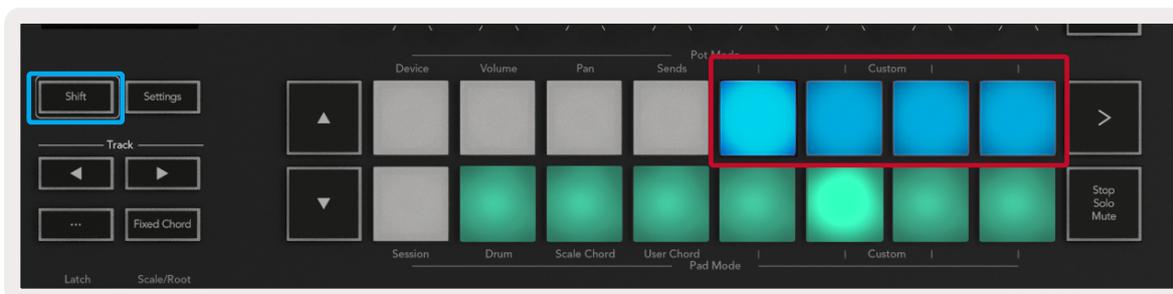


点灯している下の列のパッドでスケールを選ぶことができ、画面上に選択したスケールが表示されます。パッドは左から右の順に以下のスケールを選択できます:マイナー、メジャー、ドリアン、ミクソリディアン、フリジアン、ハーモニックマイナー、マイナーペンタトニック、メジャーペンタトニック

スケール設定モードを終了するには、Scaleボタンまたはいずれかのファンクションボタンを押します。設定モードは10秒以上操作が行われないとタイムアウトになり、キーボードが直前の状態に戻ります。

3.4 カスタムモード

Launchkeyのノブ、パッド、フェーダー(49および61鍵盤モデルのみ)は、Novation Componentsを使用することでカスタムメッセージを送信するように設定できます。これらのカスタムメッセージ設定は、カスタムモードと呼ばれます。カスタムモードにアクセスするには、Shiftを押さえたままCustomモードのパッド/フェーダーボタンを押します。スタンドアロンで操作している場合、デバイス、音量、パン、SEND、セッションモードは利用できません。



Componentsには、WebMIDI対応ブラウザ (Google ChromeまたはOperaを推奨) を使ってcomponents.novationmusic.comからアクセスしてください。もしくは、Novationのアカウントページから、Componentsのスタンドアロンバージョンをダウンロードしてください。

3.4.1 パッド

Launchkeyには4つのパッドのカスタムモードが備わっています。これらのカスタムモードにアクセスするには、Shiftを押さえたまま4つのパッドモードのCustomボタンのいずれかを押します。Componentsを使用することで、パッドからMIDIノート、プログラムチェンジメッセージ、CCメッセージを送るよう設定することができます。

Launchkeyには、この機能が持つ可能性をわかりやすく示す4つのデフォルトのカスタムパッドモードが備わっています。デフォルトのパッドモードは、左から右の順に、以下の機能となっています。

マイナースケール：各パッドが2オクターブにわたるCマイナースケールのノートとなります。

オルタナティブドラム：ドラム演奏用のドラムモードレイアウトに代わる機能です。

CCスイッチ：モーメンタリ列とトグル列を持つMIDIマッピング用のCCスイッチのセクションとなります。

プログラム0-15：プリセット選択の最初の16プログラムチェンジ。

3.4.2 ノブ

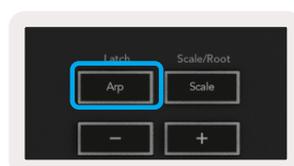
Launchkeyには4つのノブカスタムモードが備わっています。Shiftを押さえたまま4つのノブモードのCustomボタンのいずれかを押すことでこれらのカスタムモードにアクセスできます。Componentsを使用すれば、ノブをカスタムCC番号に設定することができます。

3.4.3 フェーダー (49および61鍵盤モデルのみ)

Launchkeyには4つのフェーダーカスタムモードが備わっており、Shiftを押さえたまま4つのフェーダーモードのCustomボタンのいずれかを押すことでこれらのカスタムモードにアクセスできます。Componentsを使用して、フェーダーにカスタムCC番号を割り当てるのが可能です。

3.5 アルペジエーター

Launchkeyの左側の [Arp] ボタンを押すとアルペジエーターが有効になり、取得したコード情報からアルペジオが生成されます。つまり、コードを構成する各ノートを次々に演奏します。鍵盤が押されている間、Arp Rateで指定されているリズム値でアルペジエーターが適用されます。



Launchkeyのアルペジエーターは、簡単に面白いメロディーや進行が見つかる素晴らしい手段です。

3.5.1 アルペジエーターのロータリーノブ

Shiftボタンを押さえたままロータリーノブを動かすことで、アルペジオを変化させられます。



Tempo (テンポ) – Arp Rate (アルペジオレート)と相対してアルペジオの速さを調整します。Launchkeyをスタンドアロンコントローラーとして使用する場合、ノブの調整範囲は60BPMから187BPMになります。ただし、Ableton Liveと同期している場合は、ノブの操作は無効になります。

Swing (スウィング) – 各ノートのタイミングを遅らせる割合を設定することで、リズムにスウィングが適用されます。アルペジエーターのスウィングを変更するには、Arpボタンを押さえたままSwingノブを回します。デフォルト (中心位置) ではスウィングが0% (スウィングなし) に設定されており、一番右に回すと80% (スウィングが多くかかった状態)、一番左に回すと-80% (マイナス方向のスウィングが多くかかった状態) となります。マイナス値の場合、各ノートが遅れる代わりに速くなります。

Gate (ゲート) – ノブを調整することでMIDIノートの長さを変更し、よりスタッカートが効いたアルペジオや、レガートの効いたより滑らかなアルペジオを生成します。ノブの調整範囲はノート間の隙間を0~200%の間で設定できます。スウィングが適用されているノートの場合、両ノートが同じゲート長を保ちます。

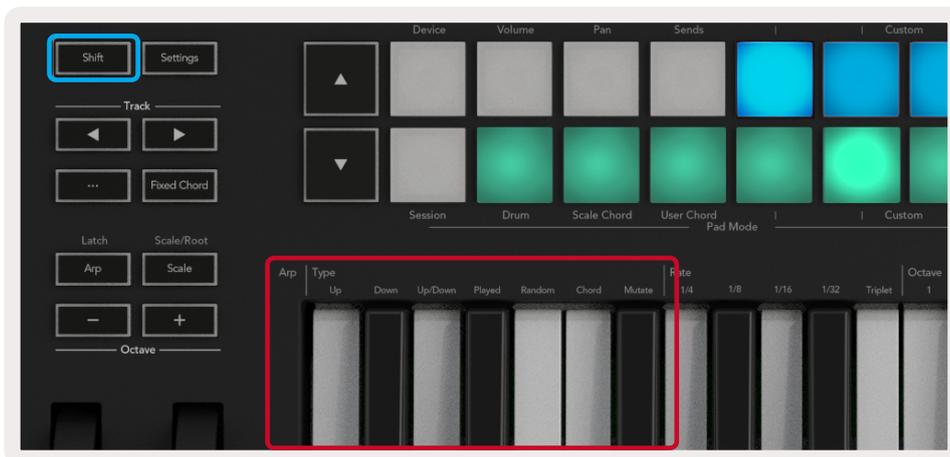
Mutate (ミューテート) – Arp Typeでミューテートを選択した後、Shiftボタンを押さえたままこのノブを回すことで、アルペジオにバリエーションが加わります。ノブを回すごとに、新しい「ミューテート (変化)」が起こります。ノブの回転を止めるとノートが設定され、リピートが始まります。

Deviate (逸脱) – Arp RhythmでDeviateをを選択した後にこのノブを回すことで、リズムのバリエーションが生成されます。ノブを回すごとに異なるパターンの休符が生成されます。

これらのノブは、Arp Control Lock が有効な状態にもアルペジオ機能をコントロールします。

3.5.2 アルペジオモード

アルペジエーターをオンにすると、7つあるアルペジエータータイプのいずれかが選択され、それぞれ異なるノートの順番でアルペジオが生成されます。Arp Type (アルペジオタイプ) を変更するには、Shiftボタンを押さえたまま任意のモードに該当する鍵盤を押します。



Up- ノートが昇順に演奏されます (ピッチが下から上のノートの順)。ノートを追加するとシーケンス内のノート数は増えますが、演奏は昇順のままとなります。例えば、最初のノートのE3を押さえたままC3とG3をすぐ追加した場合、C3、E3、G3の順番にノートが演奏されるアルペジオが生成されます。

Down- Upモードと同じ要領で、ノートが降順に演奏されます (例: G3、E3、C3の順番)。

Up/Down- ノートが昇順に演奏され一番高いピッチのノートに達した後、一番低いピッチのノートに向かって下降し、一番低いノートが一度演奏されてからアルペジオが再び上昇し、一番低いノートに達する前に停止します。つまり、パターンが繰り返された場合、一番低いノートは一度しか演奏されません。

Played- 演奏された順番でノートが繰り返し演奏されます。

Random-コードに含まれるノートの順番が無制限にランダム化されます。

Chord- 全てのノートがリズムステップ (Arp Rateを参照) ごとに演奏されます。これにより、高速なコードの演奏を簡単に行えます。

Mutate- このモードでは、Mutateノブを回すことで独自のノートが生成され、アルペジオに追加されます。このノブを回すと意外な方法でアルペジオに変化を加えることができるため大変便利です。ノブを左に回すとソフトな変化を、右に回すと激しい変化をもたらします。つまり、左に25%回すとアルペジオに微妙な変化が加わり、右に99%回すと全く思いがけない効果もたらされます。満足できるサウンドが生成されたらノブの回転を止めます。するとノートが定義され、リピートが始まります。

3.5.3アルペジオレート

これらのオプションで、アルペジオが適用されたノートの速度を設定できます。各ノートは、直前のノートが演奏されるとすぐに演奏されるため、より短いレート (例: 1/32) は、長いレート (例: 1/4) よりも速くアルペジオを演奏します。

各レートオプションは、一般的な音符の定義と共通です (4分音符=1/4、8分音符=1/8、16分音符=1/16、32分音符=1/32)。Arp Rate (アルペジオレート) を変更するには、[Arp] ボタンを押さえたまま、[1/4]、[1/8]、[1/16]、[1/32] 下の鍵盤を押します。

さらに [Triplet] 下の鍵盤を押すことで、三連符のオンオフを切り替えられ、アルペジオノートが4分音符、8分音

符、16分音符、32分音符の三連符にそれぞれ変化します。



3.5.4アルペジオオクターブ

これらの4つの鍵盤では、アルペジオが繰り返すオクターブ数を指定します。変更するには、Arpボタンを押さえたまま [1]、[2]、[3]、[4]下の鍵盤を押します。2以上のオクターブを選択すると、より高いオクターブでアルペジオが繰り返されます。例えば、1オクターブに設定している時にC3、E3、G3だったアルペジオは、2オクターブに設定するとC3、E3、G3、C4、E4、G4となります。



3.5.5アルペジオリズム

Arp Rhythm (アルペジオリズム) では、アルペジオのパターンに休符(無音のステップ)を追加することでバリエーションがより広がります。Arpを押さえたまま次のいずれかの鍵盤を押します：

O - 3つのリズムパターンのオプションを示します。

- O - 通常のアルペジオレーター設定であり、選択されているアルペジオレートのすべての区分にノートを配置します。
- OXO (音符 - 休符 - 音符) - ノートの各ペア間に休符を追加します。
- OXXO (音符 - 休符 - 休符 - 音符) - このパターンは、ノートの各ペア間に2つの休符を追加します。

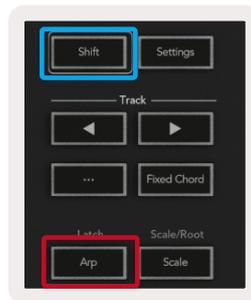
Random - ランダムな長さに対してランダムな休符を生成します。各ステップは、半々の割合で音符か休符のいずれかになります。休符の場合は、音符は次のステップに移動しスキップされません。

Deviate - 最もユニークなアルペジオリズムであり、多くのノートのバリエーションを生成します。Deviateのロータリーノブを回すごとに異なる休符パターンを生成します。

3.5.6 ラッチ

ラッチ機能を使用すれば、鍵盤を押さえ続けなくてもアルペジエーターを使用できます。同時に押した複数のノートはアルペジエーターのラッチの対象となり、新しいアルペジオパターンを形成します。ラッチされると、鍵盤を押さえたままの状態として認識され、アルペジエーターが演奏されます。新しい鍵盤を押すと直前のアルペジオが削除され、新しいアルペジオが形成されます。

Shiftボタンを押さえたままArpボタンを押すことでラッチを行えます。

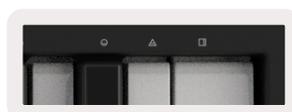


3.5.7 Arp Control Lock (アルペジオコントロールロック)

Arpボタンを長押しするとアルペジオコントロールロックがオンになり、画面上に示されます。Arpコントロールロックモードがオンの場合には、Shiftを押さなくてもノブやパッドのアルペジオコントロールに直接アクセスできます。片手だけを使ってアルペジエーターで演奏したい場合に便利です。アルペジオコントロールロックがオンになっている間は、ArpボタンのLEDが点滅します。Arpボタンを再度押すと、アルペジオコントロールロックがオフになります。



下図に示されているラベルアイコンは、今後Launchkeyに新たな機能が追加された時のために用意されています。最新のファームウェアアップデートをチェックしてください。



3.6 オクターブボタン

オクターブボタンを押すと、キーボードのオクターブが1ずつ上下します。使用できるオクターブの範囲はC-2～C8となっており、Shiftを押さえたままオクターブボタンを押すことで、キーボードを半音単位でトランスポーズできます。



キーボードのオクターブを0にリセットするには、Octaveの+と-ボタンを同時に押します。キーボードのトランスポーズを0にリセットするには、Shiftを押さえながらOctaveの+と-ボタンを同時に押します。

3.7 設定

[Settings] ボタンを押すと画面上に設定メニューが表示されます。シーン ▲▼ ボタンで設定リストをスクロールできます。設定の値を調整するには、パッドまたはトラック ◀▶ ボタンを使用します。設定できる項目は以下の通りです。

項目	説明	値の範囲	初期設定
Keys MIDI Channel	鍵盤のMIDIチャンネルを設定します。	1～16	1
Chords MIDI Channel	スケールコードおよびユーザーコードのMIDIチャンネルを設定します。	1～16	2
Drums MIDI Channel	ドラムモードのMIDIチャンネルを設定します。	1～16	10
Velocity Curve (Keys)	鍵盤のベロシティカーブを選択します。	Soft / Normal / Hard / Off	Normal
Velocity Curve (Pads)	パッドのベロシティカーブを選択します。	Soft / Normal / Hard / Off	Normal
Pad Aftertouch	アフタータッチのタイプを設定します。	Off / Channel / Poly	Poly
Pad AT Threshold	アフタータッチが有効化するスレッシュホールドを設定します。	Low / Medium / High	Normal
Pot Pick-up	ノブのピックアップのオンオフを切り替えます。	Off / On	Off
MIDI Clock Out	MIDIクロックアウトのオンオフを切り替えます。	Off / On	On
Brightness	パッドと画面の明るさを調整します。	1～16	9
Vegas Mode*	ベガスモード*のオンオフを切り替えます。	Off / On	On

*ベガスモードとは、一定の時間操作が無い場合にパッドやフェーダーボタンに表示されるライトショーのことです。

3.8 Pot Pickup (ノブのピックアップ)

ノブのピックアップは、Settingsメニューからオンにできます。ノブのピックアップがオンになると、Launchkey本体がノブやフェーダーのページのあらゆる状態を保存します。コントロール部は、保存した状態の位置に動かされた場合にのみMIDI出力を行います。これは、コントロール値が急上昇することを防ぐためです。

コントロール部が動かされピックアップが行われえない場合、ピックアップ位置に動かされるまで、保存されている値が画面に表示されます。

3.9 ナビゲーションモード - ([...]ボタン)

[...] ボタンを押すとLaunchkeyがナビゲーションモードに切り替わり、サンプルやプリセットのブラウジングを簡単に行えます。この場合下図のようにパッドが点灯し、4つの青いパッドが左右上下のキーパッドを表すことで、コンピュータキーボードのカーソルコントロールキーの役割を担います。緑のパッドはコンピュータキーボードにおけるEnterキーの役割をします。このパッドを使用することで、DAWまたはソフトウェアプラグイン内のプリセットやサンプルのブラウジングや選択を行ったり、キーボードのカーソルキーや入力ボタンとして別の用途に使用したりすることができます。



4.0 他のDAWとの連携

Launchkeyは、LogicやReasonだけでなく、HUI(ヒューマンユーザーインターフェース)を使用した様々なDAWの多目的MIDIコントローラーとして機能します。鍵盤から送信されるノートオンおよびノートオフメッセージに加えて、[Novation Components](#)を使用することで、ノブ、フェーダー、パッドのそれぞれが任意のMIDIメッセージを送信するようカスタマイズを行えます。これにより、自身の用途に合わせた設定を本体に行えます。

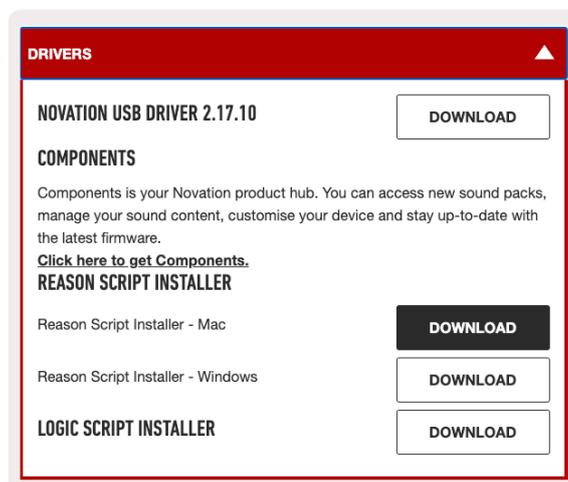
4.1 Logic

Launchkeyは、Apple Logic Pro X内の多くの機能に対するコントローラーとして使用できます。[スタンドアロン機能](#)のセクションで説明されている動作は、Logic Pro Xでも同様です。さらに、[カスタムモード](#)を使えば、必要に応じてLaunchkeyの設定を変更することも可能です。Logic Proに特化したLaunchkeyの機能もいくつかあるので、以下で詳しく説明します。

4.1.1 セットアップ

LaunchkeyをLogic Proと一緒に使用する場合は、以下の手順に従って必要なドライバをダウンロードしてください：

- [Novation Customer Portal](#)のリンクにnovationmusic.comからアクセス
- Launchkey [MK3] を登録
- My Hardware > Launchkey [MK3] > Drivers に移動

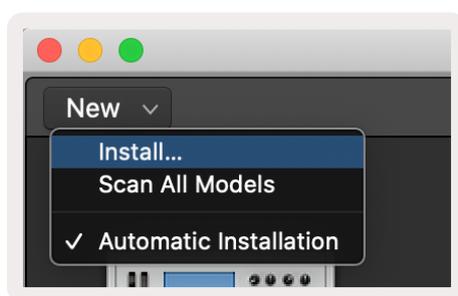


- Logic Script Installerをダウンロードして実行

Logic Proとスクリプトをインストールしたら、LaunchkeyをMacまたはWindowsのUSBポートに接続します。Logicを開くと、Launchkeyが自動的に検出されます。LaunchkeyのShiftボタンを長押しすると、パッドが下図のように点灯します。



このように点灯しない場合、手動でLaunchkeyをコントロールサーフェスとして選択してください (Logic Pro X > コントロールサーフェス > 設定)。設定ウインドウが表示されたら、[新規] メニューから [インストール] を選択します。インストールウインドウが開くので、[Novation Launchkey] までスクロールして [追加] をクリックします。



4.1.2セッションモード

Shiftキーを押さえたままセッションモードパッドを押すと、下図のようにセッションモードに切り替わります。セッションモードでは、Logicトラックの録音やミュート、ソロを行えます。



録音 / ミュート モード - パッドの上の列が任意のトラックの録音アームを有効にします。有効な場合パッドが赤く点灯します。下の列はトラックのミュートを切り替え、有効な場合黄色に点灯します。パッドが表すトラックにはあらゆるセンドトラックも含まれますが、上の列のパッドはセンド(バス)では点灯しません。



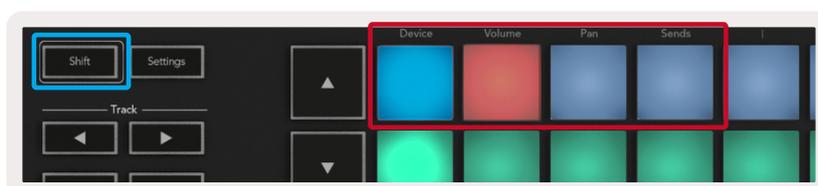
赤いパッドを押すとそのトラックの録音が可能になり、より明るく点灯します。トラックがミュートになると、該当するパッドがより明るく点灯します。

録音／ソロモード - 上記のように、上の列のパッドが任意のトラックの録音アームを切り替え、下の列はトラックのソロを行います（青く点灯）。ソロにすると、パッドがより明るい青になります。



上記2つのモードは、Stop/Solo/Muteボタンを押して切り替えます。LaunchkeyをLogic Proで使用する場合、Stop/Solo/MuteボタンはSoloモードとMuteモードの切り替えのみで、Stopモードはありません。トラックの停止は **停止ボタン**で行います。

4.1.3 ノブ



デバイスモード - ノブをパラメータまたは選択中のトラック上のデバイスに対する"スマートコントロール"として機能させます。インストゥルメントトラックの場合は、インストゥルメントのパラメータ列となります。ノブをデバイスモードに切り替えるには、Shiftボタンを押さえたままDeviceパッド(上の列一番左)を押します。これにより、各ノブが動かされた際に変更が加わったデバイスパラメータと現在の値がしばらくの間画面に表示されます。下図は「Classic Electric Piano」を含むトラックを示しており、Launchkeyの8つのノブが[Bell Volume]、[Treble]、[Drive]など様々な重要なパラメータをコントロールします。



ボリュームモード - ノブをセンドトラック (バス) を含むプロジェクト内のトラックのボリュームコントロールにリンクさせます。ノブを動かすと、変更が加わったパラメータと現在の値が画面に表示されます。

パンモード - ノブでセンド (バス) を含む任意のトラックのパンをコントロールします。ノブを動かすと、変更が加わったパラメータと現在の値が画面に表示されます。

センドモード - ノブでセンドをコントロールします。ノブを動かすと、変更が加わったパラメータと現在の値が画面に表示されます。

注意 (49および61鍵盤モデルのみ) : ノブとフェーダーの両方へ同時にモードを割り当てることはできません。ノブにすでにモードがマッピングされている場合、Shiftを押している間それぞれのフェーダーボタンが赤く点灯し、この状態でフェーダーボタンを押してもフェーダーをそのモードに割り当てることができません。

4.1.4 フェーダー (49および61鍵盤モデルのみ)

デバイスモード - フェーダーをパラメータまたは選択中のトラック上のデバイスに対するスマートコントロールとして機能させます (ナビゲーションを参照)。インストゥルメントトラックの場合は、インストゥルメントのパラメータ列となります。フェーダーをデバイスモードに切り替えるには、Shiftボタンを押さえたままDeviceのフェーダーボタン (一番左) を押します。これにより、フェーダーを動かすと、変更が加わったデバイスパラメータと現在の値がしばらく画面に表示されます。

ボリュームモード - フェーダーをセンド (バストラック) を含むプロジェクト内のトラックのボリュームコントロールにリンクさせます。フェーダーを動かすと、変更が加わったパラメータと現在の値が画面に表示されます。

センドモード - フェーダーでセンドをコントロールします。フェーダーを動かすと、変更が加わったパラメータと現在の値が画面に表示されます。

注意: ノブとフェーダーの両方へ同時にモードを割り当てることはできません。ノブにすでにモードがマッピングされている場合、Shiftを押している間それぞれのフェーダーボタンが赤く点灯し、この状態でフェーダーボタンを押してもフェーダーをそのモードに割り当てることができません。

4.1.5 Arm/ Select (アーム／選択) (61および49鍵盤モデルのみ)

[Arm/ Select] ボタンでは、8つのトラックボタンの機能をトラックの録音アームの有効化またはトラック選択に設定します。録音アームを設定した場合、トラックの録音アームが有効なトラック下のボタンが赤く点灯し、無効なトラックは薄暗い赤に点灯します。点灯していないボタンは、フェーダーにいかなるトラックも紐づいていないことを示します。

[Select]に設定されている場合ボタンが白く点灯し、選択されているトラックは明るく、選択されていないトラックは暗く点灯します。フェーダーボタンを押すと、そのトラックが選択されます。

4.1.6 トランスポート機能

下図のMIDIボタンでは、Logic Proでのパフォーマンスと録音の際の重要な機能を果たします。



- Capture MIDI - このボタンを押すと、Logicの「録音結果を取り込む」機能が有効化されます。
- Click - メトロノームのクリックのオンオフを切り替えます。
- Undo - アンドゥ機能をトリガーします。
- 録音 - 録音を開始します。
- 再生および停止 - トラックの再生をコントロールします。
- ループ - ループ再生のオンオフを切り替えます ("サイクルモード")。

4.1.7 ナビゲーション

◀および▶トラックボタンで選択中のトラック間をナビゲートできます。セッションモードでは、選択中のトラックのパッドが選択されていないトラックよりも明るい赤に点灯し、デバイスモードでは、選択されたトラックに応じてスマートコントロールが変化します。



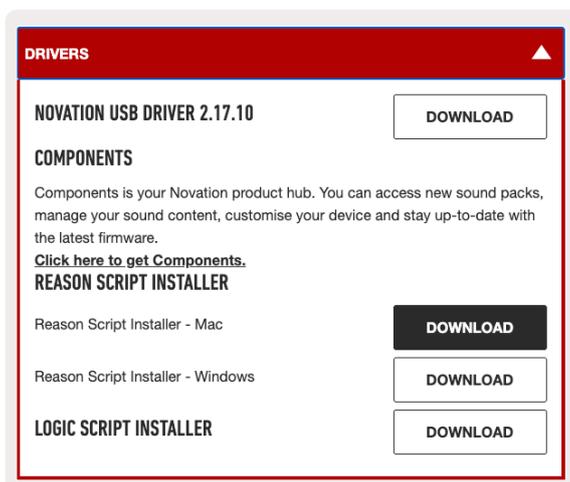
4.2 Reason

Launchkeyは、Propellerhead Reason内の多くの機能に対するコントローラーとして使用できます。[スタンドアロン機能](#)のセクションで説明されている動作は、Reasonでも同様です。さらに、[カスタムモード](#)を使えば、必要に応じてLaunchkeyの設定を変更することも可能です。Reasonに特化したLaunchkeyの機能もいくつかあるので、以下で詳しく説明します。

4.2.1 セットアップ

LaunchkeyをReasonと一緒に使用する場合は、以下の手順に従って必要なスクリプトをダウンロードしてください：

- [Novation Customer Portal](#)のリンクにnovationmusic.comからアクセス
- Launchkey [MK3] を登録
- My Hardware > Launchkey [MK3] > Drivers に移動後Reason Script Installerをダウンロードして実行



Reasonとスクリプトをインストールしたら、LaunchkeyをMacまたはWindowsのUSBポートに接続します。Launchkeyが自動的に検出され、キーボード&コントローラーウィンドウが表示されます。表示されない場合は、Reason > 環境設定 > コントローラーの順番で開くことができます。Novation Launchkey MK3の [Reasonで使用する] がチェックされていることを確認してください。ウィンドウを閉じます。LaunchkeyのShiftボタンを長押しすると、パッドが下図のように点灯します。



4.2.2 トランスポートコントロール

- Quantise -クオンタイズのオンオフを切り替え、受信されたMIDIにクオンタイズを適用します。
- Click - メトロノームのクリックのオンオフを切り替えます。
- Undo - アンドゥ機能をトリガーします。
- 再生と停止 - トラックの再生をコントロールします。
- 録音 - 録音を開始します。
- ループ - ループ再生のオンオフを切り替えます ("サイクルモード")。

4.2.3 ロータリーノブ

Reasonインストゥルメントが選択されている場合、Launchkeyの8つのノブが主要なパラメータをコントロールするよう自動的に設定されます。もちろん、ノブがコントロールするパラメータはインストゥルメントによって異なります。例えばKongのDrum Designerでは、Launchkeyのノブは左から右の順に、Pitch、Decay、Bus FX、Aux 1、Aux 2、Tone、Pan、Levelにマッピングされます。

4.2.4 パッドのセッションモード

Reasonインストゥルメントが選択され、パッドが (Shiftを押さえたままSessionパッドを押して) セッションモードに設定されている場合、Launchkeyの16個のパッドが主要なデバイス設定をコントロールするよう自動的に設定されます。例えばGrain Sample Manipulatorでは、パッドは左から右の順に、Effects On、Phaser On、Distortion On、EQ On、Delay On、Reverb On、Compression On、Key Mode setting (Poly、Retrig、Legatoを切り替え)、Porta (Off、On、Autoを切り替え)、Motion、Grain Type Select、Oscillator On/ Off、Sample to Filter、Osc to Filterにマッピングされます。

4.2.5 ナビゲーション

◀および▶ 矢印ボタンで、トラック間を移動できます。◀ ボタンを押すと上のトラックが選択され、▶ ボタンを押すと、現在選択中の下のトラックが選択されます。これにより、新しく選択したReasonトラックも自動的にアームされます。

4.2.6 プリセットのブラウズ

▲および▼ ボタンで、Reasonインストゥルメントのプリセットをスクロールできます。



4.3 HUIとの連携 (Pro Tools、Cubase、Studio Oneなど)

"HUI" (ヒューマンユーザーインターフェースプロトコル) は、LaunchkeyをMackie HUIデバイスのように動作させることができ、HUI対応DAWとの連携を可能にします。HUI対応DAWには、Steinberg Cubase、Avid Pro Tools、PreSonus Studio Oneなどが挙げられます。スタンドアロン機能のセクションで説明されている動作は、HUI対応DAWにも適用されます。以下のページでは、LaunchkeyがHUIを介してコントロールサーフェスとして動作する際の機能について説明しています。

4.3.1 セットアップ

4.3.1.1 Pro Tools

LaunchkeyをPro Toolsで設定するには、[設定] > [ペリフェラル] に移動します。[MIDI コントローラー] タブを選択し、[タイプ] を [HUI] に、[受信元] を [Launchkey MK3 (#) LKMK3 DAW Out] に、[送信先] を [Launchkey MK3 (#) LKMK3 DAW In] に、[# チャンネル] を [8] に設定します。

4.3.1.2 Cubase

LaunchkeyをCubaseで設定するには、[スタジオ] > [スタジオ設定] に移動します。次にリモートオプションに移動し、[Mackie HUI] を選択します。MIDI入力には [Launchkey MK3 (#) LKMK3 DAW Out] を、MIDI出力には [Launchkey MK3 (#) LKMK3 DAW In] を選択します。最後に[適用] を押せば、LaunchkeyとCubaseを一緒に使用できます。

4.3.1.3 Studio One

LaunchkeyをStudio oneで設定するには、[環境設定] > [外部デバイス] を選択し、[追加...]をクリックします。次に、リストから [Mackie HUI] を選択し、[受信元] を [Launchkey MK3 (#) LKMK3 DAW Out] に、[送信先] を [Launchkey MK3 (#) LKMK3 DAW In] に設定します。

4.3.2 パッドのセッションモード

Shiftを押さえたままSessionパッド (下の列一番左) を押すとセッションモードに切り替わり、Launchkeyの16個のパッドを使ってトラックのミュートやソロができるようになります。ここでは上の列が青色に点灯し、下の列は黄色に点灯します。パッドは、ソロやミュートが有効でない場合は薄暗く、有効な場合は明るく点灯します。

4.3.3 ナビゲーション

◀および▶トラックボタンは、選択されているトラック間を移動します。一度に8つのトラックバンクを移動するには、Shiftボタンを押さえたまま◀または▶トラックボタンを押します。

4.3.4 ミキサーのコントロール

ノブとフェーダー (49および61鍵盤モデルのみ) を使って、トラックのバンクのミキサーコントロールを行えます。Shiftを押さえたままVolume、Pan、Sendパンボタンまたはフェーダーボタンのいずれかを押し、Launchkeyの8つのノブまたはフェーダーで、トラックの音量、パン、Send A/Bをコントロールできます。(Shiftを押さえたまま) Sendパッドを数回押すと、Send AとBが切り替わります。

4.3.5 フェーダーおよびフェーダーボタン（49および61鍵盤モデルのみ）

フェーダーは常に、選択されているトラックのバンクのトラック音量をコントロールします。

Arm/Selectボタンでトラックのアーム（デフォルト）とトラック選択を切り替えます。フェーダーボタンは、トラック選択モードでは薄い白に、アームモードでは赤く点灯します。トラックが選択され有効になると、フェーダーボタンが明るく点灯します。

4.3.6 トランスポートボタン

HUIと一緒に使用することで、トランスポートボタンが以下のように機能します。

再生 - トラックの再生が開始します。

Stop - トラックの再生が停止します。

Undo - アンドゥ機能をトリガーします。

録音 - 録音アーム機能をトリガーします。

ループ - ループ再生のオンオフを切り替えます ("サイクルモード")。

5.0 カスタムモードおよびComponents

カスタムモードでは、コントロールエリアごとに独自のMIDIテンプレートを作成できます。作成されたテンプレートは、Novation ComponentsからLaunchkeyに送信できます。

